DOI：10.2490/jjrmc.61.1014

REPORT

Jpn J Rehabil Med 2024；61：1014

第 18 回 ISPRM（国際リハビリテーション医学会）

第 18 回 ISPRM（国際リハビリテーション医学会）が，2024 年 6 月 1 日～6 日，シドニー（オーストラリア）で開催されました．この国際学会に参加された藤田医科大学医学部リハビリテーション医学講座の柴田斉子准教授にお話をうかがいました．（文責　広報委員会）

Q．第 18 回 ISPRM（国際リハビリテーション医学会）に参加する目的

柴田先生：自身のポスター発表と，初めて国際学会で口演発表する後輩の支援，各国で取り組んでいる最新のリハビリテーション医療に関する情報収集を行う目的で参加しました．

Q．会場と街の様子

柴田先生：シドニーは冬の始まりで朝方は気温が低く，寒いと感じることもありましたが，日中は過ごしやすい気温でした．学会場が面しているダーリング・ハーバーでは，この時期の特別企画として夜間のライトアップが行われ，夜まで多くの人が訪れ賑わいをみせていました．治安も悪くなく，近くのタウンホールにあるショッピングセンターまで歩いて行くこともできました．学会場はとても広く綺麗で，映像や音響システムが整っており聴講に集中することができました．

Q．聴講（参加）したセッションとその感想

柴田先生：国際的な交換留学に関するセッションに参加しました．韓国のソウル大学にも数カ月の留学から Ph.D.（博士号）を取るためのコースまでが準備されており，フィリピン，マレーシア，ベトナム，インドネシアなどのアジア圏域や，ニカラグアやモロッコからの留学生を毎年数多く受け入れているとのことでした．現地の言葉を理解し，患者とのコミュニケーションをはかることができれば，より多くの経験を積むことができたに違いない，言語を勉強してまた訪れたい，と話す留学者の言葉が印象的でした．私の所属施設でも毎年海外から多くの見学者，留学生を受け入れており，英語でのコミュニケーション能力を高め，よい体験を通してお互いの国のリハビリテーション医療を理解し，高めていけるよう努力したいと思いました．

Q．若手の活躍

柴田先生：初めて国際学会で発表した後輩は，緊張していましたが立派に発表を終え，同じセッ

ダーリング・ハーバーから見た学会場

第一会場の様子

初めての国際学会での発表

ションの演者や座長と交流することができ，よい経験になったようです．中国や台湾からも若手の発表が多く，積極的にチャレンジし，ステップアップしていくことが大切であると心に刻んでいました．

Q．展示，ウェルカムパーティー，アトラクションなど

柴田先生：日本の学会に比べると企業展示は少ない印象でしたが，会場ではVR（Virtual Reality：仮想現実）を用いた訓練機器やサスペンション（懸垂装置）を用いたバランスや歩行の訓練機器などが多く展示されていました．ウェルカムパーティーではコアラ，ウォンバット，ワニなどが登場し，一緒に写真が撮れるなどオーストラリアならではの企画で盛り上がっていました．会期中は美味しいオーストラリアフードとワインをたくさんいただき，とても楽しく過ごすことができました．特にカフェラテよりもエスプレッソの風味が強く濃厚な味わいのコーヒー“フラットホワイト”がおいしく，毎日のルーティンとなりました．

Q．ISPRM2024で印象に残ったこと

柴田先生：症例報告，観察研究，臨床研究などさまざまな発表がありました．人口や年齢分布など各国の特徴が色濃く反映されており，興味深く聴講しました．オセアニアからは主催国のオーストラリア，隣国のニュージーランド，アジアからはインドネシア，中国，韓国，台湾からの発表が多く，勢いを感じました．引き続き日本からも多くの人が学会に参加し発表を行い，世界との活発な交流を継続していくことの重要性を感じ，帰国の途につきました．

ISPRMコミッショナーの皆様

レセプションパーティーの様子

日本から参加の先生方

豪快なシーフード

ダーリング・ハーバーのライトアップ

学会場から見たシドニーの街並み